

カヤノ平の植物採集

和田 清

第90回例会は、昭和57年7月3～4日の両日に、カヤノ平高原（下高井郡木島平村）で開かれた。出席者は、大塚孝一、小口好久、奥原弘人、小崎昭則、北村英一、倉田稔、平林陸男、古谷義人、堀米富平、望月精一の各氏と幹事の和田、当日参加は信大学生1名の総計12名であった。

この時期の野外例会は、毎年雨が一番の心配事であるが、今回は幸い天候については何の苦もなく開催することができた。しかし、場所選びには毎度のことながら幹事の頭痛のたねである。植物誌のこともあるので、続けて当番の分担区内でやるのも気がひけるしというわけで、カヤノ平に決めるまでにはずい分と悩んだつもりでいる。ご承知のように、このカヤノ平は一大ブナ林地帯（過去？）であり、スミレ愛好家の方々には喜ばれそうなチシマウスバスミレ（南限）やオオバタチツボスミレが観察できる場所である。交通の便が悪くて迷いもしたが、このブナ林も一度は見えていただきたいということで決行させてもらった。

現地集合となった1日めの夕方は、林道沿いの採集を行い、特にサワグルミが茂る谷間では、オオメ

シダやイヌガンソク、ヤグルマソウ、サンカヨウなどいずれも超大型に一同目をみはる。宿泊は、高原の真ん中にある山小屋を使い、例会にはめずらしいランプの下で自己紹介が行われた。夕食が済むと外のブナ林の端へ移動し、夜間採集をする倉田氏から夜の蝶ならぬ蛾の話を、体内消毒をしながらおそくまでうかがった。

2日めは、北どぶ（北湿原）へ出かけた。ブナ林の中を小1時間、最近はずっかり道が整備されて訪ねる人達もふえている。湿原は約7 haで、7月中旬頃からニッコウキスゲの橙色でうめつくされる。10数年前、私は地元の中学校へ勤めていて、年に何回か生徒と一緒にこの湿原へやっていた。年々踏み荒される状態に早急に対処されるよう進言してきたが、現在は木道が設置されている。今期は、スミレの季節であった。

午後は、スーパー林道を野沢温泉へ向けて走り、ブナ林を充分楽しんでもらったつもりだが果たして如何だったか。尚、今回の採集物は、担当の堀米氏の方から植物誌資料として納品される手筈である。

横川峡・経ヶ岳の植物採集

名 取 陽

本会の第91回例会は、昭和57年8月28・29日の両日、上伊那郡辰野町、横川峡～大滝沢～経ヶ岳のコースで、植物採集会として行なわれた。参加者は、大塚孝一、小口好久、上条重利、上条京子、北村英一、小林富雄、中村英夫、馬場多久男、平林陸男、古谷義人、山下正幸、横内文人、和田清の諸氏と幹事名取の総勢14名であった。

採集地の選定にあたっては、普段あまり入れず興味のある所ということで選んだものの、横川川上部から経ヶ岳への道は、廃道となって久しく、訪れる人も殆どなく、野猿の群が出没する山域で、経ヶ岳直下は猛烈なシナノザサのブッシュとなっており、大変な苦行を強いられる採集会となったが、無事、経ヶ岳の頂上に立つことができた。

第1日。宿泊所の利久荘は、小野駅から徒歩で20分あまり山あいの閑静な宿であった。近くの枝垂栗自生地を見るなどして、夕刻までに7名が集合した。

夜は、清流の音を聞きながら、遅くまで植物の話題に花が咲いた。

第2日。天候も心配なく、早朝に出発。横川峡名勝の蛇石で当日参加者7名と合流した。天然記念物の蛇石を見学後、横川川、大滝川にそって林道を車で上る。トチノキ、ツガ、アカシデ、オオバアサガラ、ホソエウリハダ、アズサ、シナノキ、オヒョウ、ウダイカンバ、ヤシヤブシなどの木本が目に入る。大滝沢に入り間もなく車道は地崩れで行き止りとなり、それより先は、伐採後の開けた谷すじを採集しながら登る。ヤマハッカ、ソバナ、ヤマアジサイ、

ツリフネソウ、キツリフネ、ヤマキケマン、アカバナ、フシグロセンノウ、ミソガワソウ、ミズタマソウ、モミジガサ、ヤマトリカブト、キオン、ハンショウヅル、イワシモツケ、イタドリ、エゾノギンギシ、ヤグルマソウ、コキンレイカ、ノリクラアザミ、ヤマブキショウマ、メタカラコウ、ヤマホトトギス、クロクモソウ、カニコウモリ、クリンユキフデ、クジャクシダ、ヤナギラン、などが見られた。10年以上前に廃車道となり、ほとんど人も通らない荒道で、しかも標高1300 mの地点に、帰化植物ムシトリナデシコが数本みられたことなども興味を引いた。

標高1700 mあたりで、沢すじから離れ、いよいよ経ヶ岳北斜面の登りとなった。ツバメオモト、クルマユリ、コバイケイソウ、テガタチドリ、マルバダケブキなどが見られた。標高1750 mのコメツガ林で、タカネソヨゴという珍品も見つかる。

横内文人先生によると、1951年林氏により仙丈岳1900 mで発見され、奥原（木曾、真弓峠）、横内斎

（中房）の報告があり、今回4回目ということである。近くには、アカミノイヌツゲ、ハクサンシャクナゲ、ミヤマシグレ、ホソバツルツゲ、コケシノブ、イワカガミ、ナナカマド、サラサドウダン、ヒメコマツなどが見られた。このあたりからは、シナノザサが一面に密生し、踏跡もすっかり消えてしまい、一時は経ヶ岳頂上まではとても無理かと危ぶまれたが、セリバシオガマ、オサバグサなど珍しい植物に励まされ、ようやく経ヶ岳の頂上（2296 m）に立つことができた。頂上付近は、まだ樹林帯を抜けぬものの、強風のため丈の低い、オオシラビソ、シラビソ、トウヒ、ナナカマドなどの低木林となっていた。開空地には、ヤマドリゼンマイ、ゴゼンタチバナ、シナノキイチゴ、ヒメスゲなどが見られた。伊那側は一面伐採され、眼下の伊那谷から樫兵衛峠、木曾駒連山が一望され、登りの苦しさを忘れるに充分であった。

〔秋季例会会宿調査報告〕

八坂村・野平の植物採集

八 幡 泰 平

今年度最後の例会は、昭和57年10月23・24日両日、秋の気配も深まった北安曇郡八坂村を中心とした山麓部で植物採集会としておこなわれた。

参加者は、当日参加の方を含めて、奥原弘人、望月精一、古谷義人、和田 清、渡辺隆一、渡辺富子、渡辺森太郎、中沢袈裟延の諸氏と幹事八幡の総勢9名であった。

第1日。宿泊場所は八坂村で経営する「明日香荘」であった。八坂村の中でも比較的空の広い斜面にあるわかり易い場所であった。採集会としては時期的にやゝ遅かったので宿泊者は幹事を含めて8名で淋しかったが、午前中から八坂の相川や唐花見の観察をされた奥原先生や、望月・古谷・和田・渡辺先生の植物のお話があり勉強不足気味の幹事にとって大変有意義な機会であった。

第2日。宿舎のマイクロバスで、一気に山清路へ出て、野平の地志原で下車、あとは急な坂道を歩く。山清路手前の路上でヨコグラーノキを教えてください。

ヤクシソウ、イヌガンソク、オウレンシダ、イワガネゼンマイ、ケキブシ、トラノオシダ、イワシロイノデ、サカゲイノデ、アブラススキ、オオアブラススキ、エドヒガンザクラ、オニイタヤ、アカイタヤ、クマノミズキ、オオウメモドキ、ミヤマシケンシダ、サイハイラン、ヤマキツネノボタン、ウシハコベ、タニウツギ、ニシノホンモンジスゲ、ドクダミメドハギ、オオモミジなど見られた。

昼近くなって天候が心配になったが、朝出発した明日香荘まで帰ることができた。明日香荘の駐車場で解散式の時に奥原先生から次のような宿題をいただいた。「タニウツギを少し見かけたが、八坂村か池田町、生坂村へ行くと見かけない。どこの地区が南限になっているかを花の咲く時期に確かめておいでほしい。」

交通の便の悪い所であったが、参加された方々はそれぞれに収穫があったのではないかと勝手に思いながら、同時に参加者に厚く感謝致します。

〔交換図書雑誌目録〕（68頁から続く）

ふるさとの植物（岐阜県植物館）1982

山口県のコケとシダ（山口県立山口博物館）1982

群馬の植物散歩（須藤志成幸）1982

日本植物探訪記その18、19（奥山春季）1982

キイレットトリモチとその人工増殖

（阿久沢栄太郎編）1982